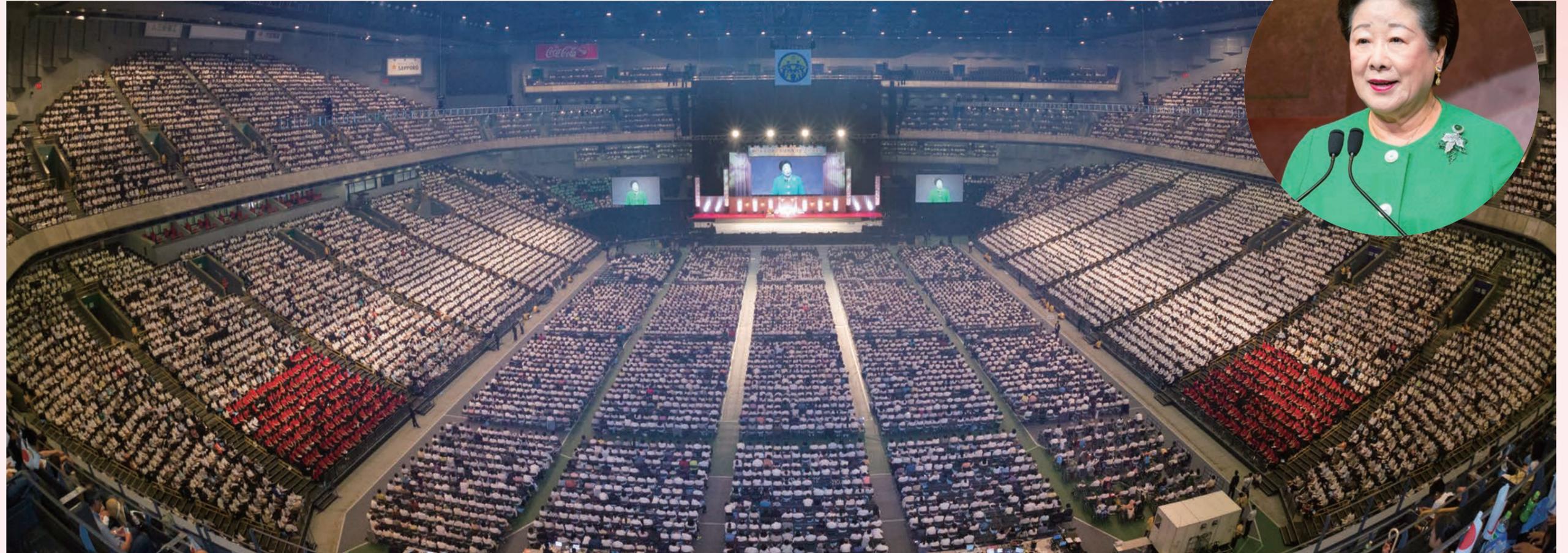


「2018神日本家庭連合 希望前進決意2万名大会」大勝利

天地人真の父母様をお迎えし、日本宣教60周年記念



2万人の観衆で埋め尽くされたさいたまスーパーアリーナでみ言を語られる真のお母様

2018年7月1日、天地人真の父母様を实体でお迎えする中、さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）で日本宣教60周年を記念し、「2018神日本家庭連合 希望前進決意2万名大会」が開催されました。夏の暑い日差しと30度を超える猛暑をもとせず、東京をはじめ首都圏から集まった2万人の祝福家庭と食口たちは、開場の3時間前から列をつくり、会場のドアが開くのを待っていました。会場内では朝早くから、パフォーマンスを行う中高生と青年たちがリハーサルを行いました。彼らは前日も遅くまで練習をしながら真の父母様に対する孝情の心情で燃え、真の父母様の前でダンスを踊り、歌を歌う、生涯において最高の瞬間において、天の孝子・孝女として成長することを決意しながら準備しました。

真の父母様の懐の中のように真の愛と孝情で満ち溢れた会場のドアが開くと、待機していた2万人の参加者たち

でアリーナ席から5階席までが満席となり、開会を知らせるチャイムと共に厳粛に大会が始まりました。2万名大会の様子はPeaceTVを通して韓国語と日本語など5カ国語で全世界に中継されました。

大会は、第1部の讚美役事と第2部の宣教60周年記念式典に分けて行われました。第1部の讚美役事のオープニングは、「HYO-YONG（孝踊）Kanagawa」チームが「咲き誇る孝情の花」をダンスで表現。また「渋谷クワイア」合唱団の「聖苑のめぐみ」が会場に美しい旋律を響かせました。続いて、堀信義先生の恩恵深い代表報告祈禱のあと、清平役事を紹介する映像が上映されました。その後始まった2万人の讚美役事では、荘厳な歌声が会場を振動させ、参加者たちは60年の神日本家庭連合の歴史の中で、天の父母様と真の父母様に不孝・不

忠した内容を熱い涙で悔い改めました。

讚美役事を終えた後、北東京青年合唱団の「成約聖歌メドレー」が参加者たちを敬虔にし、続いて南東京教区教区の中高生130人が国旗パフォーマンス「True Love Wave」を披露。会場がより一層暑い熱気で覆われる中、第1部を終えました。

天地人真の父母様をお迎えして行われた第2部の宣教60周年記念式典は、司会の矢野治佳・伝道教育局長の開会宣言でスタート。最初に「天地人真の父母様と日本統一運動」と題する映像が10分間上映され、参加者たちは日本宣教60年を振り返りました。

続いて、徳野英治会長が主催者挨拶を行い、「60年前、真の父母様により始まった日本の統一運動が生まれ変わり、次元を高めて再出発するための祝福

を受けることになりました。皆様！天の父母様と真の父母様が60年間守ってくださり、導いてくださったことに大きな感謝と拍手を捧げましょう！」と述べ、韓半島の情勢と世界の難問題について触れながらこのすべての難題を解決される方が天地人真の父母様の統一運動であると説明。「文鮮明^{マンソンミン}総裁の令夫人である韓鶴子^{ハンハクジ}総裁こそ人類の真の母であり、天がこの地上に送られた天の独り娘であります。今日、このさいたまスーパーアリーナに5年ぶりに人類の真の母、天の独り娘、韓鶴子総裁をお迎えしました」と真のお母様を紹介しました。

最後に、徳野会長は「韓鶴子総裁のメッセージを通して真理のみ言をしっかり受け止め、天が祝福せざるを得ない、天が期待せざるを得ない、神日本家庭連合として再出発しましょう」と訴えました。



①南東京教区の中高生による国旗パフォーマンス ②1300人の聖歌隊による「オモニム～紫色の無窮花～」
③名古屋の青年たちによる「伝統の旗手」のダンス ④2万人の参加者が共に行った清平「讚美役事」



①文善進世界会長による真のお母様の紹介 ②挨拶をする徳野英治会長 ③新しい出発の決意を込めた億万歳四唱
④み言を聴く参加者たち ⑤孝情スピーチをする大学生 ⑥オープニングを務めた「HYO-YONG (孝踊) Kanagawa」チーム

“人類文明史から見た天の摂理の終着点はいつだったのか？”

来賓紹介に続いて、来賓二人が祝辞を行いました。

各界各層の指導者からの祝電が紹介されたあと、聖和した元家庭連合会長の孫であるKさん（大学3年生）が登壇し、「孝情スピーチ」を行いました。Kさんは、スピーチの最後に「天の父母様と真の父母様に対する『孝情』は脈々と受け継がれています。母の国・日本は、その使命を果たすまで前進します」と述べ、スピーチを聴いた参加者たちの多くが涙を禁じ得ませんでした。

Kさんの感動的なスピーチは、1300人から構成された全国女性聖歌隊が歌う「紫の無窮花」の感動的な歌とともに参加者の孝情の心情を響かせました。

その後、文善進世界会長が真のお母様を紹介されました。文世界会長は、神日本家庭連合の食口たちに感謝の気持ちを伝えたあと、「真の父母様は常に日本を世界の母の国、すなわち神様のすべての子女のために生き、過去に失ったすべてのことを復帰するために苦勞する父母とっておられます」と、神日本の位相を伝えられながら、「真のお母様は、生涯を公的な目的のために生きてこられ、誕生されるその瞬間から天の導きと保護を受けられました。そして一生の間、神様にすべてを捧げられ、神様の平和の夢を成して差し上げるためすべてのものを

捧げてこられました」と強調。最後に「真のお母様は私たち全員を平和の勇士として育てるため、天の父母様の愛と真理の実体になることを願われ、ともに全ての人類の家庭と万物のための恒久的な平和と繁栄の新しい世界の秩序を導くことができるよう願っておられます。真のお母様を盛大な拍手でお迎えしてまいりましょう」と語られ、会場全体が盛大な拍手と歓声で真のお母様をお迎えしました。

満場の拍手に包まれ、濃い黄緑色の美しいスーツ姿で登壇された真のお母様は、梶栗正義 UPF 会長夫妻から花束を受けられたあと、久保木哲子夫人と小山田秀生・日本天議苑苑長から礼物を受け取られました。

真のお母様は「尊敬する内外貴賓、各界指導者、政界を代表する議員、平和大使、そして宣教60周年を迎えて一堂に会した家庭連合の祝福家庭の会員の皆さん、お会いできて嬉しいです」とみ言を始められ、「人類が指向している自由な平和世界は、人間が中心ではありません。宇宙の主人であられる創造主・神様を正しく知り、その主人のみ意に合うように生きる人類となつてこそ、平和世界が可能なのです」と語られました。そして、お母様は「人類文明史から見た天の摂理の終着点はいつ

だったのか？」というテーマで深い天の摂理を語られました。（真のお母様のみ言全文は、7～9面に掲載）

真のお母様は、み言の最後に「この国が天の父母様に侍った神日本になるようになる時、その位相が世界を抱く母の責任を果たす神日本になるようになる時、世界のすべての国々が子女たちとして父母を敬うようになるその日が来るでしょう」と語られました。そして「今現在、為政者たちは過去の過ちを認めなければならないでしょう。そうして未来のもっと大きい目標に向かって、私たちは共に、家庭連合と一緒に、UPF、青年連合、女性連合、すべての機関が世界平和のために前進する、跳躍するこの日となることを祝願します」と語られ、神日本を祝福して下さいました。

み言を終えられたお母様は、文善進世界会長の案内のもと檀上に準備された席にお座りになられたあと、名古屋の青年54人で構成された「Pure Water Youth」メンバーたちの「伝統の旗手」をテーマとしたダンスを観覧されました。名古屋の青年たちの躍動的な踊りに続いて、第1地区の青年学生400人が、孝情の心情と夢を成すための決意を込め、「無条件」の歌に合わせたダンスを披露。舞台の上と会場全体に分かれた青年学生たち

の力強い掛け声と「無条件」のダンスは大迫力で、参加した2万人は拍手と歓声で盛り上がりました。続いて、真のお母様に捧げる「み言の応援歌」を壮年4人が静かに歌い始め、続いて壮年3000人が迫力溢れる歌声で会場を圧倒しました。3000人の壮年が肩を組み、歌を歌う姿に、参加者たちと真のお母様は満面の笑みで大きな拍手を送られました。

続いて、全参加者が真のお母様の前に起立し、決意表明を行いました。代表して決意表明文を読み上げた田中富広副会長（第1地区長）のリードに合わせ2万人すべてが「決意します！」と力強く述べました。

最後に方相逸・復興局長のリードで億万歳四唱を行い、2万名大会はフィナーレを迎えました。

慈愛に満ちた笑顔で参加者たちを見て、参加者たちの敬礼を受けられたあと、真のお母様は、文善進世界会長の手を握り、手を振って参加者たちとの別れを惜しみながら、会場を後にされました。

参加者たちは、真のお母様の姿が見えなくなるまで、勝利に向けた決意と孝情の心情を込めた温かい拍手で答えました。



①み言を語られる真のお母様 ②お母様に花束を贈呈する三世の小学生1-6年生 ③ケーキカットをされる真の父母様

①感想を発表する金山奉子・東神奈川教区婦人代表 ②力強く決意を表明する本山勝道・日本 CARP 会長 ③59年の信仰を証しする増田勝先生夫妻 ④真の父母様に礼物を奉呈 ⑤430家庭神氏族メシヤの勝利者たちと記念撮影

「2018神日本家庭連合 希望前進決意2万名大会」祝勝会

大会が開催されたさいたまスーパーアリーナから祝勝会が開かれた新宿の会場まで30キロも離れたため、大会を勝利された真のお母様はすぐに大会会場を出発され、祝勝会会場に移動されました。

祝勝会のために真のお母様は華やかな花柄のトップスと黒のガウンに着替え、美しいお姿で祝勝会に入場。敬拝を受けられたあと、小学1年生から6年生までの6人の三世たちから勝利の花束を受けられ、記念撮影をされました。続いて、勝利を祝賀するケーキカットが行われたあと、日本の徳野英治会長と李成萬副会長、世界本部がそれぞれ、お母様に礼物を奉呈。また李基誠・神韓国家庭連合会長と金起勲・北米大陸会長も礼物をお捧げしました。

真のお母様がお座りになられ、堀正一副会長が代表報告祈禱をしたあと、徳野会長が感謝の挨拶を行い、「今回、日本宣教60周年を記念した『神日本家庭連合 希望前進決意2万名大会』を大勝利に導いてくださったお方は、人類の真のお母様であり、宇宙の母であり、天の独り娘であられる真のお母様です。皆さんの心を束ね合わせ、感謝の拍手をお捧げしましよ

う」と語りました。また、参加した指導者と先輩家庭、そして世界本部と神韓国、神アメリカの指導者たちにも感謝の気持ちを伝えました。最後に「真のお母様のみ言に200%一致した姿で母の国の摂理を勝利すること」を決意しながら挨拶を終えました。

来賓二人による祝辞のあと、飯野貞夫特別巡回師の乾杯の音頭で晚餐が始まりました。

晚餐が行われる中、日本で初めて伝道された“初穂”として59年間の信仰生活を送ってきた増田勝先生が証しを行いました。増田先生は其中で、「真のお父様、真のお母様は、世界を救援されるメシヤであります」と語り、よりいっそう一生懸命に活動をしていく決意を表明しました。続いて、金山奉子・東神奈川教区婦人代表と本山勝道・日本 CARP 会長が感想発表を行いました。金山婦人代表は「今回の大会に3000人の壮年と1300人の婦人の合唱がありましたが、同じ気持ちの何十倍の食口たちがいます」と述べ、VISION2020勝利に向かって全国のすべての食口たちが一致団結して全力を尽くしていると報告。本山会長は「真のお母様、感謝申し上げます。“きよ

う、私たちは真の父母様と一つになれば恐れるものは何もないことを確信しました」と強調したうえで、すべての勝利はお母様に希望をお与えしたい孝情の故に可能だったと語り、「私たちは、天一国の“特攻隊”、『花郎徒』として最前線でお母様と共にまいります」と力強く決意を述べました。

その後のエンターテインメントでは、北東京教区竹ノ塚家庭教会の聖歌隊が「ガラス色の地球」と「あなたは愛を受けるために生まれてきた人」を歌い、7月27日に東京国際合唱大会に参加する千葉鮮鶴合唱団は「ランダランダラヤ」と「アメージンググレース」を披露し、祝勝会に参加した参加者たちの心をつかみました。エンターテインメントの最後は、16年間で卒業生700人を排出したSTFの代表たちが参加し、文孝進様の楽曲「汽笛」を歌い、涙を流しながら決意を表明し、真のお母様に孝情の心情を表現しました。

続いて、真のお母様から「430家庭神氏族メシヤ」を勝利した53家庭を代表し、10家庭に記念品が贈呈され、記念撮影が行われました。真のお母様は参

加者たちに「夕食はおいしく食べましたか。(はい)私はきょう、幸せでしょうか。私はハッピーですか」と尋ねられながらみ言を始められ、真のお母様を探すための天の父母様のご苦勞と苦難を語られました。そして「過去に、墮落したアダムとエバのように、自分があってはいけません。ただひとつの心、ひとつの志、ひとつの愛で。私がいつも語るでしょう、ひまわりのように整列された人生を生きなければなりません」と語られ、「年を取ろうと、若かろうと、天の父母様、真の父母の紐を放してはいけません」と語られました。そして、最後に「きょう、1地区の大会でしたけれども、そういう夢を持った私たちの二世、三世がいるということが、とても誇らしく幸せなのです」と明るく微笑まれながらみ言を終えられました。(祝勝会のみ言全文は10面に掲載)

続いて「天一国孝情苑」の伝授式が行われ、真のお母様から5つの地区の地区長に伝授されました。祝勝会の最後は、柴沼邦彦特別巡回師のリードで億万歳四唱が行われ、真のお母様に敬拝をお捧げして祝勝会の幕が下りました。



2万名大会における 真のお母様のみ言全文

尊敬する内外貴賓、各界指導者、政界を代表した議員、平和大使、そして宣教 60 周年を迎えて一堂に会した家庭連合の祝福家庭の会員の皆さん、お会いできて嬉しいです。(拍手)

今日家庭連合は、人生(歴史)において 60 周年を迎えるようになります。そのようになれば、終わるのではなく、新しく跳躍する出発点になることを覚えて下さるようお願いします。(拍手)

今日、世界で起こっている多くの難問題があります。人間の力で(解決するに)は限界に達しました。私は昨日日本に来て、東京で美しい空を見ました。私が記憶するには、1970 年代の東京は公害がひどい都市として世界に知られていました。しかし今日では、世界で一番公害がない都市に変貌しました。それは、皆さんがいたので可能だったのです。(拍手)

そうです。全世界的に起きている、人間の無知によって生じた公害は言うまでもありません。人類の未来は勿論のこと、地球の未来も保障できない結果を見せています。

それではどのようにしなければなりませんか。世界人類が一つになることができる求心点を探さなければなりません。今日の世界において、ある国がうまくしているとしても、周辺の国々がそうではない状態であるときには、結果的に全体が被害を受けるようになります。

私は、今日どのようにすれば人類が指向している自由な平和世界に、いつ私たちが出会えるのでしょうか(悩みます)。

これに対する答えはただ一つです。人間が中心ではありません。宇宙の主人であられる創造主・神様が、主人であります。その主人を正しく知り、その主人のみ意に適う



①み言を語られる真のお母様 ②真のお母様のみ言を聴く2万人の観衆

ように生きる人類となつてこそ、平和世界が可能なのです。(拍手)

太初に神様が、天地万物をご自身のかたちに似せて創造されました。植物界、動物界、人間の先祖になり得る男性と女性とを創造されました。しかし人間には成長期間という時間を下さいました。その時間をかけて人間は美しく、よく成長して、神様の祝福を受ける位置に進まなければなりません。しかし途中で、欲心が生じました。それで今日、人間は神様とは関係のない、墮落した人間となつてしまったのです。

そして全知全能であられる神様は、ご自身が立てられたみ旨を必ず完成しなければなりません。それゆえに、恨めしく痛ましい人類救援という、蕩滅復帰摂理歴史を導いてこられる以外にありませんでした。その例として、イスラエル民族という選民を立てて、過つたことに対して、個人から国の形態ができるまで蕩滅復帰摂理歴史を歩まれました。キリスト教徒たちは、聖書を通してその歴史を知っているでしょう。どれだけ難しく苦勞しながら待たなければならない期間だったのかを考えてみると、墮落した世界に「私の息子だ」と言える独り子イエス・キリストを送られるまで、4000 年という途方もない時間が流れたのです。4000 年です。

しかしイエス様を誕生させたマリヤ、ユダヤ教、イスラエル民族は、神様が分かりませんでした。イエス様の本質が分かりませんでした。それで、結局は十字架に迫りました。そのようなイスラエル民族は、歴史を通して途方もない蕩滅を払いました。これが歴史の真実です。

イエス様は十字架で亡くなられる状況の中で、「また来る」と言われました。もしそのとき、イスラエル民族がイ

エス様と一つになって、イエス様が真の父母の位置に進んでいかれたならば、ローマ帝国を通してそのときイエス様を中心とする地上天国が成されたことでしょうか。どれほど痛ましくて悲しい歴史でしょうか。

イエス様の十字架の後に、聖霊の役事で、使徒たちによってキリスト教文化が発します。イタリア半島を中心に、ヨーロッパ大陸、島国のイギリスに行くまで、1000 年あまりが経ちました。イギリスを中心とするキリスト教文化で大西洋文明圏時代を開きました。そして世界に広がっていきました。イギリスは、太陽の沈まない国と言われました。しかし結果はどうになりましたか。彼らもまたイエス様の本質を知りませんでした。ために生きる真の愛ではなく、利己主義で自国の利益を考えて、結局は奪ってくる文明となつてしまいました。

天は責任を果たせなかった人間やその国を、再び立てて用いられません。そのとき(新婦を)探せなかったイエス様が「また来る」と言われ、再び来られて「小羊の婚宴」をするというので、2000 年のキリスト教文化は「小羊の婚宴」を行える新婦、独り娘を誕生させる基盤とならなければならないのです。

天はアジアに韓国、朝鮮半島を通して 2000 年間育ててきました。準備してこられました。そして 1943 年に独り娘が誕生しました。(拍手)

1945 年に韓国が解放されましたが、南北に分かれました。民主と共産に分かれました。そのとき私は、以北が故郷です。多くの神霊的なキリスト教集団では、再臨のメシヤは平壤を通して来ると信じていました。それで私の家族は南下する考えを持ってませんでした。ところが日本の大学で勉強をした私の母方のおじが、故郷には帰らず

に韓国で軍隊に入ったという情報が来ました。それで、三代の母子は下つて来るようになったのです。

なぜ私がこの話をするのかというと、神様の創造原則は人間には時間を与えたと話しましたが、2000 年ぶりに探し出した独り娘が幼子では、摂理を導くことはできません。成長しなければなりません。安全に成長しなければなりません。それゆえに天は、私のために南下するように導きました。南下してから 2 年後に 6・25 動乱が起きようになります。そのとき韓国は、以北に対抗する準備が整っていませんでした。世界にはさほど知られていない国です。ところで、どのようにして UN の 16 か国が韓国動乱に参戦して善なる血を流したのでしょうか。私が説明をしなくても、天が私に成長期間を下さなければならぬため、私が大人になるまで保護しなければなりません。皆さん、理解できますか。

私は、時が分かるので、私は決心して、1960 年に真の父母の位置に進み出ました。(拍手) 墮落した人類は、よく信じるとしても神様の前に進み出ることできません。過つた血統を転換すればこそ、神様の子女になるのです。そのことをして下さいの方が、人類の真の父母です。(拍手)

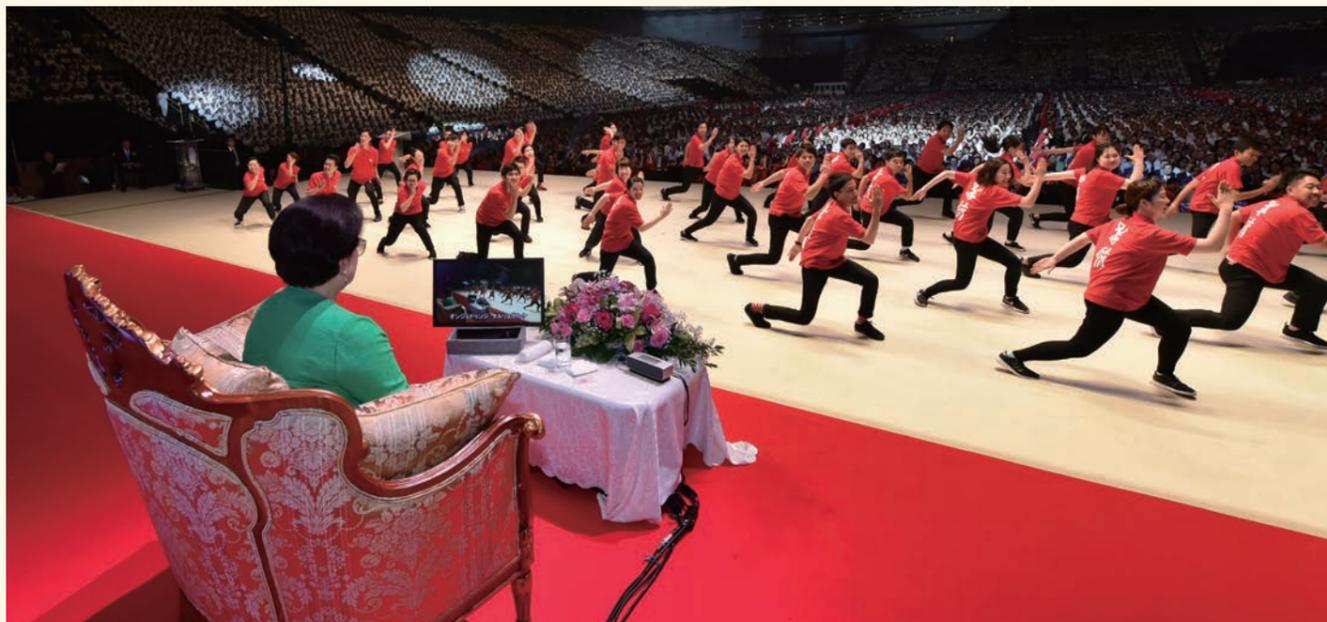
それゆえに、家庭連合は祝福理想、祝福家庭を深く褒めたたえます。(拍手) 祝福は、分け与えれば分け与えるほど大きくなるのです。それですべての祝福家庭は氏族メシヤになりなさいと言いました。(拍手) 彼らが国と世界に向かって進み出るようになるとき、それほどまでに人類が願う平和世界、父母様を中心とする人類一大家族、地上天国を成すことができます。(拍手)

私がきょう語ろうとする題目があります。「人類文明史から見た天の摂理の終着点はいつだったのか」。私が今語った内容です。そして「今日私たちはどのようにしなければならないのか」。最初にも話しましたが、一人、一国がよくしたとして、平和世界が成されることはありません。皆一緒によくしなければなりません。

いま当面している韓国の、南北の問題もそうです。人間中心では、完全な統一は遥かに遠いのです。みんなが自分の利益を先に考えるからそうなのです。全体を見ることができずに、現在の自分を中心とする考えをするからなのです。問題は、家庭から氏族、国、世界に至るまで、本来の主人であられる創造主・天の父母様に待る道以外に答えはありません。(拍手)

私は韓国動乱 60 周年となる年に、まだ生存する 16 ケ国の参戦勇士たちに、リトルエンジェルスを通して慰問をしました。彼らは未だに生き生きと韓国を覚えていて、韓国を愛していると言いました。このように真実は通じるのです。恩恵を受けたら恩恵を返さなければならないのです。

私は言いたいのです。私たちが一つになるためには、過去に過つたことは認めて、過つたことを、これから未来の



真の父母様の前で「無条件」ダンスを披露する400人の青年学生たち

ためによくしてみようと、手を取り合って進まなければなりません。そうですか、そうではないですか。(拍手)

人間的に考えれば、許すことができない民族です。しかし、天の摂理において、真の父母は日本を、世界のために生きるエバ国、母の国として祝福しました。(拍手)

母の特徴は、自分を顧みず、子供のためならばすべてのものを惜しまずと与えます。そうではないですか。(拍手) それで私は、韓国と日本と世界を代表したアメリカ、この3カ国を中心としてアジア太平洋文明圏時代を開きました。そして孝情の心情文化革命の旗印を掲げて、堂々と私たちの二世、三世たちが世界に進んで勝利を収めています。(拍手)

先ほど、司会者がアメリカの350人の青年たちが来たことを知らせるのを聞きました。そうです。世界的に、個人主義、利己主義によって、家庭の大切さが分かりません。一言で、未来がないということです。しかし私たち家庭連合は、家庭を大切に思います。私たちの未来の希望となる二世、三世たちは、父母の志に従って、天の父母様の夢を成して差し上げる天一国の勇士として、勇兵として、世界のために生きようと立ち上がっています。(拍手)

それが私達の希望です。いまこの地球星は病気にかかっています。地球の未来がどうなるのか心配をしています。世界で聞かれるニュースは、想像することもできない、異常で惨憺たる事々がたくさん起こっています。それは結局、人間の無知によって、人間がつくった災難です。しかし私たちは、それを黙って見て、現在だけに満足して生きることはできません。

それで私は、それを治癒するために、世界のノーベル賞を受賞した多くの科学者たちを動員し、今現在当面して

いる過ったことを收拾して、希望的な未来の、本来神様が創造された健康で美しい地球星を守ることができる方法を探し出すよう、研究をさせています。(拍手)

ずいぶん前から、世界が一つになることができる世界平和高速道路、これも真の父母が提唱しました。(拍手) いまは実質的に、私はそれを実行する方向に進んでいます。(拍手)

特に島国は大陸を恋しがります。そうですか。(拍手) それで私は、韓日海底トンネルを、日本と韓国が一つになって造り、南北が一つになった位置で、ユーラシアを経て全世界に向かうことのできる平和高速道路を造りたいです。(拍手)

すでにアフリカ大陸では、希望峰からしよう発表をしました。南北米を連結するチリのサンティアゴからアジア大陸まで連結して、韓国へと通ずる世界高速道路を主唱しています。(拍手)

そのような観点から見ると、日本は韓国と一つにならなければなりません。なつてはいけませんか。(拍手) 私の話に同意するものと考えます。(拍手)

この国が天の父母様に侍った神日本になるようになると、その位相が世界を抱く母の責任を果たす神日本になるようになると、世界のすべての国々が子女たちとして父母を敬うようになるその日が来るのでしょうか、来ないでしょうか。(拍手)

今現在、為政者たちは過去の過ちを認めなければならぬでしょう。そうして未来のもっと大きい目標に向かって、私たちは共に、家庭連合と一緒に、UPF、青年連合、女性連合、すべての機関が世界平和のために前進する、跳躍するこの日となることを祈願します。(拍手)



「み旨の応援歌」を歌いながら天一国創建を決意する3000人の壮年合唱団

祝勝会における真のお母様み言全文

どうですか、夕食はおいしく食べましたか。(はい) 私はきょう、幸せでしょうか。私はハッピーですか。(はい) 皆さんはどうですか。(幸せです!) 一世の皆さんが、今まで変わらない努力を続けてきた結果が、今日のSTF、CARPとして現れました。私達の未来の希望です。灯火です。彼らがよく成長してくれているので、私はとても、とても嬉しいのです!(拍手)

天の父母様は、この一日をどれだけ待ちこがれて来られたでしょうか。どれだけこの一日を愛おしく慕っていたことでしょうか。どれだけ失った子供を探すために、血と汗と涙の限りない苦痛の推し量ることのできない、そのような路程を歩いて来られながら、人間の中で勝利した真の父母を探し出すまで、聖書で言う6000年がかかりました。しかし実際の人類歴史はもっと長いのです。一日も心の休まる日がない、愛おしさと苦痛で綴られた歳月で、それでも一筋の希望を抱かれ、探し来られたのです。真の父母を探し出すまで。

皆さんは天の父母様、天地人真の父母様を、愛さなければなりません。一つにならなければなりません。過去に、墮落したアダムとエバのように、自分があってはいけません。ただひとつの心、ひとつの志、ひとつの愛で。私がいつも語るでしょう、ひまわりのように整列された人生を生きなければなりません。年を取ろうと、若かろうと、天の父母様、真の父母の紐を放してはいけません。分かりますね。(はい)

その道において、墮落によってゆがんだ、この汚染された世界、汚染されたこの地球星を、私たちが再び取り戻

して、原状回復してあげなければいけません。分かりますか。(はい) そのような点から私は、二世、三世の皆さんに、多目的な次元で世界の指導者になり、このような多くの難問題を解決することができる、英雄が出てくることを願います。(拍手)

ところできょう、1地区の大会でしたけれども、そういう夢を持った私たちの二世、三世がいるということが、とても誇らしく幸せなのです(笑い)(拍手)



①千葉鮮鶴合唱団による歌とダンス
②STFメンバーの決意表明とパフォーマンス



30日特別精誠祈禱の1日目の午前0時に代々木聖地に集まる本部や第1地区などの責任者たち



①聖歌メドレーを歌う北東京青年合唱団 ②入場を待つたくさんの食口たち



天の奇跡と精誠と勝利で準備された埼玉2万名大会

日本では、「県別に1万人の食口基盤が集まれば訪問しよう」という真のお母様の祝福の約束にしたがって、昨年からお母様をお迎えするために第4地区の岡山と第5地区の熊本、そして第1地区の青年大会などが準備されてきました。しかし、お母様は2018年にアフリカとヨーロッパ大陸の勝利的基盤の上で、「これからは1万名大会ではなく、より大きな国家的な規模の大会を準備しなければならない」と語られました。

ところが、日本で2万名以上の会場は数年前から予約で埋まっており、今年の会場予約は難しい状況でした。それでも「今年必ず真のお母様をお迎えし、天運を受け、神日本家庭連合60周年を新しく出発したい」という徳野英治会長の強い願いと全国祝福家庭たちの願いが一致し、会場を探していくなかで、いくつかの候補地は拳がったものの、様々な事情で難しい状態でした。

ところが、今大会の40日前に2万人を収容できるさいたまスーパーアリーナの既存の予約が急にキャンセルになったのです。会場関係者から本部に連絡が来て、「40日の準備期間で2万名の会場を使用できる場所は貴団体しかありませんが、スーパーアリーナを使用されますか？」と意向を尋ねてきました。

徳野会長は直ちに真のお母様に報告し、大会開催の承認を受けたあと、まず初めに5月31日夜から全国で同時に30日特別徹夜精誠を始めました。また、特別精誠期間中である6月4～5日には全国の牧会者と婦人代表700人が集まり、1泊2日の研修会を行い、大会の勝利が目的ではなく120日路程期間中の「430家庭神氏族メシヤ勝利」と「二世青年圏祝福勝利」、および「母の国の摂理勝利」などの目標を具体的に定め、これを「勝

利した土台の上で真のお母様をお迎えしよう」と決意しました。

6月1日から30日まで全国5つの地区、68の教区、教会別に1回以上のリレー祈禱と徹夜精誠を捧げ、全食口が毎日30分以上の祈禱精誠を捧げました。特に、会場がある東埼玉教区と西埼玉教区などの第1地区の食口たちは、毎日会場の周辺を7回周りながら勝利のための精誠を捧げました。

徳野会長の「大会を勝利することが目的ではなく、目標を勝利して真の父母様をお迎えしよう」という言葉に基づき、6月中に天宙祝福式に参加予定の二世青年圏の人数が1000人を超え、交流を含めれば2000人を突破。430家庭神氏族メシヤ勝利家庭は53家庭が勝利し、6月の母の国としての世界貢献も100%勝利しました。

全国の聖歌隊メンバーたちは「真の父母様の前で聖歌を歌うんだ」と決意して九州から北海道に至るまで1300人の聖歌隊メンバーが練習を繰り返しながら準備しました。そして、何よりもこの大会の特徴は、壮年たちが大きく活躍したことです。救国救援基盤の造成と教会の活性化のためには壮年が先頭に立たなければならないのですが、昨年からは第1地区で壮年たちが壮年CIG伝道団を結成し、男性の青年伝道を始めました。これを通して、家庭での父親の位置が変わり、教会で壮年が中心に立つようになって二世たちが教会に帰ってきて、祝福に連結されるケースも多く見受けられるようになりました。今回の大会で「み旨の応援歌」を歌った3000人の壮年聖歌隊の歌は、神日本家庭連合が真の父母様を中心として新しい60年を出発する壮年たちの決意表明になりました。

大会参加者の感想

南東京教区 大田家庭教会 T・Y(女性)

徳野会長を中心に日本が一つとなって精誠を捧げることのできたこの期間、日本を一つにさせていただき、真のお母様の愛を強く実感させていただきました。お母様の事情、心情、願いと一つになろうと祈る毎日の中、お母様がどんどん近くなり、夢を見るようになりました。「お母様、心配しないでください」と胸を張って言えるように、愛すること、責任を果たすことを決意いたしました。

西北東京教区 一心家庭教会 K・F(女性)

本当に希望あふれる大会でした。（「無条件」ダンスメンバーとして）踊っているときはずっと喜び一杯で、お母様の前でお母様に踊りを捧げられることが本当に嬉しく、今までずっと喉がひどく痛かったのに「チャンプモニム」と掛け声を叫んだら痛くなくなりました。お母様の元に走っていきたく、もっと成長した姿をお見せしたいし、もっとお母様を笑顔にして差し上げることのできる娘になりたいと強く思いました。

西北東京教区 池袋家庭教会 N・M(女性)

60年前、日本にみ言の種がまかれ、当時の青年が3000人の壮年合唱を行い、また二世、三世と3世代にわたってお母様の前に孝情の精誠を捧げた大会であることを思うと、本当に感慨深い内容を感じました。お母様のみ言から、過去の「日帝時代」における日本の過ちをもう一度悔い改め、韓日一つとなって、日本が新たに生きる道を示してくださったことを感じました。

南千葉教区 佐倉家庭教会 O・I(女性)

この世の中は、毎日のように「取って食べろ！」という環境と価値観です。その中で流れられていきそうな我が子をどのように守り育てたら良いのか葛藤の毎日でした。そんな私に、神様は答えをくださいました。お母様に似た者になること！ 祝歌「紫の無窮花（ムゲンファ）」の合唱のときに、聖霊が降りてきました。神様の声、悩みに対する答えを聞いたように感じました。

私立大学教授 N・Y(男性)

讚美役事に初めて参加しましたが、非常に良かったです。体を動かすことで参加意識が高まるだけでなく、スッキリした感じがしました。毎回行ったら良いのではないかと思います。

神社宮司 W・Y(男性)

この大会自体が神様のみ業としか思えません。最後の大合唱の内容のように、天使天軍を大きく背中に背負った感覚を覚えました。

国立大学教授 K・H(男性)

真の父母として勝利してくださった道を、私たち全てに神氏族メシヤとして相続する道として与えてくださり、神日本が母の国として、世界の為に責任を果たすことを待ち望んでくださっていることをひしひしと感じました。